

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷字納間170番地		
自己評価作成日	平成27年10月11日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&jisyosyoCd=4572100644-00&PrefCd=45&Version=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、山や田畑などの自然がすぐ目の前にあり、季節の移り変わりを感じながら生活できる環境にあります。家族や地域の方も気軽に立ち寄り、戸外に出た時にも地域の方が気軽に声をかけてくれ、話がはずんだり、花を摘んでくれたり、地域とのつながりも出ています。また、法人内・外の関係事業所や病院との連携も図れており、協力体制を築くことが出来ています。利用者も個々に趣味を楽しんだり、自由に休養したりと、家庭での生活に近い生活が出来るように、職員全員でケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人平成会を中核に、老人福祉施設をはじめ、介護サービス事業所を多岐にわたり展開している。管理者・職員は、住み慣れた地域で家族の近くで安心して生活できるよう、常に利用者のことを思い、ケアに取り組んでいる。家族の来訪があれば個室を案内したり、今月初めには近くの体育館でレクリエーション大会を開催し、家族の持参した弁当に舌鼓をうち、家族と触れ合う場を支援している。また、さらなるケアの質の向上を目指して、働きやすい職場環境の提供や資格取得の勉強会を積極的に取り入れている。職員は真摯にケアに取り組み、その姿は利用者の笑顔や言動に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを大切に」を理念に、職員全員で共有し、個々が住み慣れた地域でこれまでの生活が継続できるよう支援に努めている。	「一人ひとりを大切に」を理念に掲げ、動きの活発な車椅子利用者には、ケガ予防対策を講じる等、本人のペースで生活できるよう、個々に沿ったケアを実践しており、理念が生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や行事がある時には参加し、日常的に交流が来ている。	広報一式が封書にて届き、町の行事等を把握している。「テレビきらら」にて町の行事等を見ることができ、地域や近隣の方々が身近な存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かけたり、地域の方が施設に来苑する機会を活かし、認知症の人への理解や支援方法を伝えられるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況や苑での取り組み、行事等を報告し、意見をもらうなどしている。苑での会食や防災訓練を取り入れ、サービス向上に活かせるようにしている。	家族代表や民生委員、行政の福祉課はじめ防災担当者など、多彩なメンバーが参加している。最近の会議では、防災訓練を利用者、委員と共に行い、助言や意見を受け、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苑便りを発行したり、運営推進委員会に出席してもらい、苑の実情や取り組みを伝えている。また、役場に出向いたときなどに情報交換を行うよう意識している。	運営推進会議に行政から2名の参加があるなど、協力関係を築いている。また、ホームも案内状を持参するなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が理解し、拘束はしないケアに取り組んでいる。しかし、家族からの強い希望があり、説明、納得してもらうのに難しい例もある。	毎月1回研修を行っている中で、身体拘束の弊害について勉強する機会を設けており、全職員が理解している。また、法人内においても研修があり、参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員同士が互いの言動に気を付け、注意し合い、防止に努めている。また、報道等で取り上げられている時など、意識して話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修等で説明を受けている。個々に必要がある場合は関係者と話し合い、活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は十分な説明を行った上で、利用者や家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族が意見や要望を言える環境、関係づくりに努めている。利用者から、食事の味の事等で意見が出る事もある。重要な意見、要望等は上司に報告するようにしている。	利用者が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、家族も来訪時等に気軽に意見や要望をだせる雰囲気となっており、それらの意見や要望を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員が、意見や要望を日常的に気軽に遠慮なくいえる環境を整えている。月1回の会議においても話し合う場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修を受け、学ぶ機会がある。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に向けての勉強会に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等へ参加し、同業者と情報交換や交流が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は本人と面談する機会を持ち、本人の気持ちを確認し、不安の解消に努めている。また、状況を把握し、本人が安心してサービスを受けられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談する機会を持ち、入所に至るまでの経緯を聞き、家族の気持ちを理解し、意見や要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をよく把握し、居宅支援事業所等の関係機関と連携をとり、本人や家族が必要としている支援を考え、安心、納得できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来る事や趣味、興味のある事等を把握し、一緒に行い、時には喜怒哀楽を共にし、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、本人と家族と一緒に過ごせる時間を多くもてるよう働きかけをしている。また、本人や家族の思いをそれぞれに伝えて、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や地域の行事に参加したり、行きつけの美容室を利用したりして、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	お盆には家族協力の下、墓参りや地域のなじみの祭りに出掛けたり、また、昔培った野菜作りができるようにベランダに多数のプランターを置くなど、生活習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士、良い関係でいられるように支援に努めている。利用者同士で話しかけ等を行っており、良い関係ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでの関係を大切に、相談や支援に努めていくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を聞き、思いや希望の把握に努めている。困難な場合でも、家族、職員で話し合い、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	「さあ帰ろう」と玄関まで行く利用者には迎えが来るまで待つことを伝え、寄り添い、見守り、また、編み物が趣味だった利用者には針と毛糸を用意するなど、その人の思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴や生活環境等、話せる範囲で話してもらったり、関係機関に情報提供を依頼するなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を観察し、記録に残し、申し送りをしながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の自主研修等で、個々のケアのあり方は話し合っているが、半年に1回は出来るだけ家族にも参加してもらい、介護計画書の見直しを行っている。月1回モニタリングをし、見直しに活かしている。	家族参加のもと、本人、家族の希望や日々の記録、職員の意見等を参考に、利用者がその人らしく暮らし続けるための現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の一日の流れに記録し、職員間で共有しながら、ケアの方法や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を常に把握し、その時々々のニーズに応えられるよう多職種とも連携をとりながら、柔軟な支援をしている。医療、食事の事等、看護師や栄養士に相談するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理・美容店や図書館、商店などを利用し、交流を持ち、住み慣れた地域での暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医(内科、眼科等)を定期的に受診している。受診が困難な場合は、往診という形で支援してもらっている。	家族付き添いのもと、それぞれがかかりつけ医を受診している。緊急の場合は併設の特別養護老人ホームに協力してもらい、受診をしている。歯科は往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の状況を法人内の看護師に伝え、必要な場合は傷の処置などを依頼している。しっかりした連携がとれており、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の状態を伝え、入院した際に安心して治療を受けられるよう、病院関係者との情報交換に努め、より良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や必要に応じて、重度化した場合や終末期に向けての方針、施設が対応できる能力について家族に説明している。主治医や家族、法人内の関係職員と連携をとり、話し合いを持ちながら、状況に応じて支援している。	「重度や末期の意向について」「重度化した場合の対応について」の文書を作成し、関係者全員で情報を共有し、利用者、家族の意向を尊重し、本人にとって一番幸せな形となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを確認し、対応できるようにしている。今後も勉強会を計画していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、色々な災害を想定して防災訓練を行っている。運営推進委員会の中で防災訓練を行い、行政の防災担当職員にも参加してもらい、協力体制を築いている。	運営推進委員と共に、夜間想定避難訓練をしている。また、利用者が外に出た時に近隣の人が連れてくるなど、地域住民との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った声かけ、対応に心掛けている。方言等使う場合もあるが、その時々で利用者への声掛けには気を付けている。	排せつ機能の低下によるパッド導入提案時など、特にプライドに配慮しており、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を築くよう努力し、本人の思いや希望を言える関係づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を見ながら、本人のペースに合わせたケアを行っている。趣味の時間を大切にしたり、休養をとりにいたりして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理・美容店に出かけたり、衣類の購入時には、本人の好みを聞き購入したりしている。外出時には化粧をしたり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りや収穫を一緒に行い、収穫したものを食事にとりいれたりしている。食事前に献立を利用者に読んでもらったりしている。また、家族の差し入れ等もあり、楽しみとなっている。	もやしの根取りや季節の竹の子の皮むきなど、できる作業を利用者に行ってもらっている。また、その人に応じた食形態で提供したり、菜園の野菜を使用するなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、バランスの良い食事が提供されている。水分摂取や食低下時は本人の状態や好みに合わせて工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケア、歯磨きの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間もポータブルトイレを使用するなどしている。	入居時にリハビリパンツだった利用者が布パンツに移行した例もあり、排せつ表を活用し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給を行い、スムーズな排便につながるよう支援している。また、個々の状態に応じて主治医に相談し、適切な指導を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、毎日、入浴日となっている。個々の体調に合わせて、外出予定や病院受診等を考慮しながら支援している。	毎日入浴を行っているが、利用者がくつろいで入浴できるように隔日おきにしている。入浴を嫌がる利用者には、家族が新しい服を持ってきた話や仲の良い人との入浴を勧めるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に休息が出来るよう支援したり、状態に応じ、休息の声掛けを行っている。また、日中の活動を充実させ、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は薬情を綴じて、いつでも個々の服薬状況が確認できるようにしている。変更があった場合は、申し送りノート等を活用し、情報を共有している。服薬時は名前を読む等して、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取りや洗濯物たたみ等、出来ることを見つけて張り合いを持ってもらったり、編み物や歌謡曲を聞くなどを楽しみ、気分転換しながら過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、天気の良い日は出来るだけ戸外に出られるようにしている。サンルームでの日光浴や外気浴も積極的に取り入れている。また、家族に協力してもらい、お墓参りなどにも出かけている。	気候に応じて近隣の散歩を取り入れている。また、季節に応じて花見や紅葉狩りなどのドライブも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を所持する事は、混乱やトラブルを招くことがある為、普段は預かりをしている。本人が管理したい場合は、家族と話し合い、管理方法を決めている。預り金は、出納帳で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたい、手紙が書きたいとの希望があれば、状況を見て出来るだけ本人の希望に沿うように支援している。携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に気持ち良く過ごせるように、清潔面や環境整備に気を付けている。季節の花を飾ったり、壁飾りに工夫し、季節を感じてもらえるように工夫している。また、サンルームから景色を見て、季節を感じてもらえるよう支援している。	共用空間は採光も程よく、臭いもなく清潔に保たれている。ソファで編み物をしている姿やサンルームから田園風景を眺めている姿があり、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話をしたり、趣味を自由に楽しんでもらえるよう、ソファや食事の席を工夫している。それぞれに好きな場所で会話したり、編み物をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、本人の状況に合わせて居心地良く過ごせるように工夫している。家族の写真を置いたり、好きな飾り物をおいたりして落ち着いて過ごさせている。	一人ひとり自宅で使い慣れた机や椅子、たんす、時計、携帯電話などが持ち込まれ、安心して暮らせる場所づくりがなされている。花好きな利用者の居室には植木鉢を置くなど、その人らしい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、居室やトイレに目印をする等している。不安や混乱なく安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		